

平成29年3月、第1回定例会一般質問での質問と答弁の要旨

平成29年3月、第1回定例会一般質問での質問と答弁の要旨

## 地域防災アドバイザーの推進を！

## “白杖SOS”マークの普及啓発を！

これまで議会では、避難所運営の強化をと、障害を持つ方や妊婦さんなど配慮を必要とする方のためのスペースの確保や、ペットとの同行避難の実現など、ひとつひとつ形としてきました。今回は共助には欠かせない人材について質問をしました。今、地域の防災力として意識、知識、技術を備えた「防災士」の資格を取得する方が増えています。朝霞市では公明党市議団の訴えから、**防災士資格取得補助制度の創設**が実現しました。また市では、防災士の活動の場として「地域防災アドバイザー」を任命し、災害時の初動や平時での防災訓練時など自主防災組織などでアドバイザーとして活動しています。今回、この地域防災アドバイザーを増やすためにも、防災士資格取得への周知や推進を訴えました。特に女性の防災に対する視点はとても重要です、ぜひ力を入れて欲しいと重ねて強く訴えました。さらに、障害者への防災訓練をとの要望もあることから、地域防災アドバイザーの役割として、地域には障害者、要配慮者がいること、避難には支えが必要な事など、地域でのアドバイスの時に合わせて発信していただきたいと訴えました。答弁では、防災士資格取得補助制度を来年度も継続し、周知啓発にも力を入れていくとあり、また地域には、障害をお持ちの方など、災害時に支援を必要とする方もいますので、地域ぐるみで助け合うことが必要不可欠です。地域防災アドバイザーからも自主防災組織等に助言してまいりたいとありました。



私も所属する朝霞アマチュア無線クラブからも多く地域防災アドバイザーに任命されています。



視覚障害を持つ方への支援について、これまでも点字名刺の活用なども訴えてきました。視覚障害と言っても様々な状態の方がいて、白杖を使っても全盲とは限らず弱視や身体の障害もある方など理解することが大事で、当事者への情報伝達や理解のための周知を訴えました。さらに当事者との懇談から「白杖SOS」のマークを朝霞市でも普及啓発をと訴え、**実施するとの答弁がありました。**この動作及びマークについては以前からあるものの、当事者にもまだ周知されていないことや疑問をいただくご意見もあります。ただ最近の駅のホームでの事故などで視覚障害に対して注目されていることや内閣府でも正式にホームページへ掲載されるなど、普及啓発の良い時期ではないかと感じています。さらに意見交換などを通してお願いしたいと思います。今後も障害者支援施策には、小さな事からでもひとつひとつに焦点を当て地道でも前へ進めてまいります。他に、聴覚障害者支援として、朝霞市日本手話言語条例制定後の取り組みについて、訴え第二言語である「手話」の普及啓発をと強く訴えました。



視覚障害者が周囲に助けをを求めるポーズを図案化。白杖SOSシグナル普及啓発シンボルマーク

## 地域で支え合う共生社会の実現を！

新しい総合事業の中で、市民活動と行政をつなぐ一般介護予防に係る活動をしてきました。その上で**生活支援コーディネーター**の役割が重要と訴え、改めて**地域包括ケアシステム**はまちづくりであり**庁内横断的な取組み**をと強く訴えました。**認知症対策の推進を！**正しい理解がまだまだ不十分であると実感します。今年も中学の授業の一環で認知症サポーター養成講座の開催をと訴えました。**ダブルケアへの支援を！**子育てと介護が重なる方が増えてきているなか、精神的、体力的そして経済的負担が大きく、孤立させないためにも早めに支援につなげる事が重要だと訴え、福祉総合相談窓口の早期の創設をと強く訴えました。今後も地域共生社会の実現のため継続的に訴えていきます。サポーター養成講座の開催が実現



昨年、中学校の総合学習授業で認知症

## まめ情報!! 救命講習のすすめ

先日、防災士資格取得のため、普通救命講習（3時間）を受講しました。ぜひ、多くの方に「応急手当」と「救命処置」を学んでいただきたいと思います。助かる命が亡くなることなく、救命処置によって助かる命を助けることができます。ご案内⇒⇒ 埼玉県南西部消防本部では、「今こそが命を救う応急手当」をスローガンに朝霞市・志木市・和光市・新座市に在住・在勤又は在学されている市民のみなさまに**応急手当の普及**を行っています。（講習無料）学校、職場、サークル等の仲間10人以上お集まりいただければ、出張講座も開催しています。※詳しくはお近くの消防署又は救急課へお気軽にお問合せください。

